

♪「CONCERT SERIES CROSSAir 2008」ぶらり訪問記・・・♪

9月24日(水)19:00開演

会場：めぐろパーシモンホール 小ホール
(東急東横線都立大学駅下車徒歩7分)

出演者：ゲスト/國末貞仁(サクソフォン)
大田智美(アコーディオン)
富田珠里(ピアノ)

入場料：2500円(当日、2800円)



(写真は太田智美さんより提供)

■アコーディオン奏者の太田智美さんは、関東アコーディオン演奏交流会では大変想い出のある演奏者の一人です。昨年度から審査員に加わっています柴崎和圭氏が第1回目に独奏ジュニア部門で1位に、翌年一般部門でも1位になり高等学校卒業後、渡独された後を引き継ぐかのように第3回目(1991年)からジュニア部門に出場され、第6回まで、ジュニア部門で連続1位でした。46歳ごろからアコーディオンを習い始め、当時初心者部門に出場していた筆者は、すごい人が居るものだと目を丸くしていたのを思い出します。そんな想い出もあって太田さんの成長の姿を見たく会場に足を運んでみました。

～♪～♪～♪～♪～♪～♪～♪～♪～♪～

■アコーディオンソロ、それも細かいペローシェイク、聴衆も緊張する意表をついた構成ではじまりました。プログラムに、アコーディオン特有の演奏技法が多く取り入れられ、幅広い音の表現が成されています。と曲の紹介が載せてあります。このような演奏曲を聴く機会は少ないと思う。強い音、弱い音、優しい音、激しい音、澄んだ音、弾む音、重音等々。聴衆は、「次はどんな音」と飛び出す音に集中している様子で、シーンとして1曲目から張り詰めた緊張感が感じられました。

■2曲目はピアノソロ。演奏者の富田珠里さんはプロフィールによるとアコーディオンの太田さんと同年代(1980年生まれ)で、現在ドイツ・エッセンの Folkwang 音楽大学芸術家コース・ピアノ科に在籍中とあり、会場での自己紹介では1年に1度帰国すると言われました。

演奏した曲は、スクリャーピンが25歳のときの作品で、光彩と打ち寄せる波が交錯するような印象の曲とあります。演奏の感じはうまく表現できませんが、20代の若き作曲家が何か新しいものに挑戦しようとしている感じは判るような気がしました。

■サクソホンとアコーディオンの組み合わせでは、サクソホンとアコーディオンがお互いにアドリブで入っていくような演奏で聴いていて楽しめました。サクソホン奏者の國末貞仁さんがサクソホンを始めたのは小学校からで、憧れの女の先生がサックスを吹いていていいなあと思ったのがきっかけだったとのことでした。

■二部からはタンゴメドレーで構成され、キルケの作品「満月」、U. ロイコ作品「5つのタンゴより」第三番、第五番、A. ピアソラの作品「ル・グラン・タンゴ」「鮫」、「天使のミロンガ」「フェノスアイレスの夏」とアコーディオンも左手のベルトがちぎれんばかりの迫力のある演奏が続きました。

■アンコールの曲は「オブリビオン」、アコーディオンの音なのかサックスの音なのか分からないほど溶け込んでいて素敵な世界でした。

■一部、二部を通して全体に音の消え方を楽しんでいるようにも感じました。自分にできることはなんだろう考えたとき、「左手の一拍目が落ち着いてしっかり聞こえるように意識してみよう」そんなレベルのことしか浮かばない筆者ですが、三人の若き演奏家によるさわやかな中にも意欲あふれる素敵なコンサートでした。(文：乙津)

